

2025 年度 自己点検・自己評価

— 報告書 —

【目次】

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 理念および教育目標 | 7. 教育環境 |
| 2. 学校運営 | 8. 入学者の募集と選考 |
| 3. 教育活動 | 9. 財務 |
| 4. 教育活動を担う教職員 | 10. 法令・告示基準等の遵守 |
| 5. 教育成果 | 11. 地域貢献・社会貢献 |
| 6. 学生支援 | 12. 安全・危機管理 |

対 象 期 間	令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日
学 校 名	東京早稲田外国語学校
点検（確定）日	令和 8 年 4 月 1 日～5 月 8 日

理念・ミッション
知性・感性・理性を兼ね備えた国際社会で活躍し得る人材、謙虚な心をもって人のため、社会のために尽くすことのできる人材の育成に、言語教育を通じて貢献する。
教育目標
・異なる価値観を尊重し、文化的背景の異なる人と協働して学習を進めることのできる学習者を育てる。 ・受験対策にとどまらず、進学先での学習・研究に役立つ日本語力を身に付けた学習者を育てる。 ・自らの目標達成に向け、学習を自律的に継続することのできる学習者を育てる。

点検結果評価基準
5：達成している 4：ほぼ達成している 3：改善を進めている 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

【1】 理念および教育目標

番号	点検項目	評価	現状・課題
1	理念・ミッション、教育目標が社会の要請に合致しているか。	5	多文化共生社会と国際社会の実現に寄与するために必要な内容になっている。
	理念・ミッション、教育目標が、教職員及び学生に周知されているか。	5	教職員に向けては専任・非常勤全員が参加する教職員全体会議で、学生に向けてはホームページで周知し、入学時オリエンテーションで確認している。
	教育目標に学校の特色が反映されているか。	5	多国籍の学生が高等教育機関への進学という共通の目的の下、互いに高め合いながら学びを深める環境を提供するよう努めている。
	教育目標達成に向けた教育が行われているか。	4	異文化理解、アカデミックジャパニーズを取り入れた教育課程を編成している。自律学習の意識づけとして Monoxer を導入したが、今後は学期初めに学生と学習目標を共有した上で学習計画について考える時間を取り、学期末にフィードバックと自己評価、今後に向けての目標を確認する時間を取るようにする。

【2】 学校運営

番号	点検項目	評価	現状・課題
2-1	組織的な運営		
	学校の運営体制が日本語教育機関の告示基準を満たしているか。	5	法令や基準などを遵守し、告示基準を満たしている。
	短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されているか。	5	毎週行われる管理職会議において短期目標を共有、また経営陣を交えたミーティングも定期的に行い中長期目標を共有している。
	管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされているか。	5	社内規定や業務マニュアルがあり、それに基づいて運営を行っている。
	意思決定システムは確立されているか。	5	各部署からの意見はリーダー及び主任がまとめ校長に報告。その後、役員とのミーティングの中で検討している。
	業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われているか。	5	月1のチーム長によるミーティングと週1の管理職会議において運用を検討、必要があれば積極的に見直しを行い、その結果は部署全体に周知、徹底している。
	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	5	出退勤・経理・学生管理、各教員への連絡・共有事項等を外部もしくは内部の情報システムを活用し行い、積極的に業務効率化を図っている。
2-2	情報の共有化及び発信		
	外部の情報を積極的に入手し経営に生かす仕組みがあるか。	5	経営者より日本語教育界の現状等についての情報が毎週行われる教務会議にて全教職員に共有されている。また、その他日本語教育関連や進学情報などを誰でも発信できるよう google スペース設け、情報を積極的に共有している。
	内部の情報共有を効率的に行う仕組みがあるか。	5	管理職会議を定期的に行い、そこでの情報を教務会議や総務会議で共有している。
	入学希望者・在籍者及び関係者が理解できる言語で、適切に情報提供を行っているか。	5	入学希望者及び在籍学生の国籍にはそれぞれ国の担当者がおり、必要に応じて母語にて SNS や対面で説明を行っている。

【3】 教育活動

番号	点検項目	評価	現状・課題
3-1	教育計画		
	理念・教育目標に合致したコースを設定し、カリキュラムを体系的に編成しているか。	5	コースデザインはカリキュラムチーム内の副主任以上で話し合いを重ね、初級から上級まで進路・レベル毎7コースを設定しカリキュラムを作成している。
	教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進度設計がなされているか。	5	5技能をバランスよく体系的に身につけられるようにし、またそれに合わせ思考力や想像力を養えるような内容で組んでいる。
	教育内容及び教育方法について、教員間で共通理解が得られているか。	5	年度初めには全教員が集まる共有の場を設けている。また学期が始まる前にはレベルごとの教育内容や方法について専任、非常勤に研修を実施している。
	教育目標に合致した教材は選定されているか。	5	毎年年度が始まる前に各レベルで教材の見直しを図り、教育目標や学生のニーズなどにより合ったものを選定している
	授業に関する学習リソース及び情報を授業開始までに教員に提示しているか。	5	学期が始まる前に全教員に研修を実施、または全体メールなどで共有、確認した上で授業を行っている。
	教員配置が適切になされているか。	5	各教師の経験に応じてそれに合ったレベルのクラスに配置され、担当授業時数は上限以内としている。
3-2	実施		
	授業開始までに学生の能力を筆記試験等により判定し、適切なクラス編成を行っているか。	5	入学時、日本語歴に応じて初級・中級・中上級の段階別でプレースメントテストを実施。次年度はよりレベルを正確に掴めるよう会話試験を導入予定。
	授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録しているか。	5	授業記録は日誌として授業の担当者が毎日記録している。出席簿も同様。

	理解度・到達度の確認を在籍中に適切に行い、適宜指導をしているか。	5	学期中はそれぞれのテキストで学んだことの確認テスト、年2回の定期試験を実施し、確認している。
	個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援を行っているか。	5	主に担任がクラスの理解度を把握し、必要な際は取り出し授業などを行い個々に支援をしている。
	判定基準及び判定方法が定められ、適宜開示されている。	4	作文や会話など分野別に基準を定め、主に各テストの結果によって成績を判定している。多少基準が分かりにくいところがあるため、より明確になるよう修正中。
	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証しているか。	5	判定者から都度F Bを回収し、年度末に担当者間で振り返りを行い見直しを図っている。
3-3	進路に関する支援		
	学生の進路相談を十分に行い、適切な進路先が決定できるように支援しているか。	5	年3回の個人面談日や進学説明会、また必要なタイミングで進路指導をし、学生が希望の進路に進めるよう指導している。
	進路指導担当者が特定され、指導体制が有効に機能しているか。	4	進路支援チームを設け、担任から適宜学生へ進路指導できる情報を提供しているが、進路指導の担当者はいない。担任が進路指導を責任を持って行っている
	学生の進路希望を把握し、指導担当者間で情報が共有されているか。	5	希望進路を把握できるシステムを作っており、誰でも編集・閲覧ができるようになっている。
	進学等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にあるか。	5	進学校であるため、大学院・大学・専門学校の最新の資料は備えられており、閲覧できる状態にはある。

【4】 教育活動を担う教職員

番号	点検項目	評価	現状・課題
4-1	教員組織		
	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めているか。	5	校長、主任教員はその職務内容及び責任と権限を明確に定め、体系的な運営が遂行できている。専任講師は学校及びクラス運営そして、授業において、また非常勤講師は授業において、各々の資質が活かされている。
	教育目標達成に必要な教員の知識、能力を明示しているか。	5	「教育目標」を達成するために必要な教員の資質として、「日本語の専門性及び指導力」「異文化理解力」「コミュニケーション力」などを明示している。
	教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化しているか。	5	各説明会や募集要項において、選考方法・選考プロセス・必要資格を記載し、応募者に提示している。採用決定時に、労働条件通知書により応募者に明示し、入社後に齟齬が生じないようにしている。
	教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組みをしているか。	5	新たにテキストを導入するにあたり、外部講師による実践的な指導技術の勉強会を数回にわたって実施した。また、オリジナルの語彙アプリを導入する際、使用方法や疑問点を解消するための研修を実施した。また、新任教員に対してはオリエンテーション及び指導教員によるOJTを行い、教育体制の質の均一化を図っている。外部研修への参加も奨励し、教育力の継続的な向上に努めている。
	教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っているか。	5	入社時に、教職員としての行動指針の周知および、SNSの利用や守秘義務などに関する注意喚起を行っている。また、年に一度、外部によるストレスチェックを実施し、ハラスメント防止に対する対策や発生時の連絡系統についても共有している。

	教員及び職員の評価を適切に行っているか。	5	今年度より導入した個人目標・評価制度を本格運用し、半期に一度の振り返りを設けた。上長との面談を通じて、フィードバックを行い、個人のキャリア形成や組織の問題改善に向き合うことで、教職員のモチベーション向上に繋げた。
4-2			
	生活指導責任者、入管事務担当者等を含む各業務の担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限、承認プロセスが明確に定められているか。	5	執行役員・総務部長の監督下のもと、各国担当者と事務員が生活指導及び入管事務を行っている。
	各業務の担当者が学生及び教職員に周知されているか。	5	入学時に各国担当者が国別にオリエンテーションを行っている。教職員に対しても事務担当者の各業務の一覧表を共有している。
	入管申請取次者、防火防災管理者を設置しているか。	5	複数名の取次者・防火防災管理者がおり、いかなる状況にも対応できるようにしている。
4-3	採用と育成		
	学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか。	4	採用合同説明会、各養成講座での説明会、オンラインによる新卒者向け説明会と幅広く募集をおこなった。条件を満たした人物の面接と模擬授業の選考により採用し、必要な人材を確保した。採用後は、新任研修、マンツーマンによる教案チェック、各種勉強会などにより、育成をおこなっている。

【5】 教育成果

番号	点検項目	評価	現状・課題
5	進路及び卒業・修了判定が設けられている。(適切に行われているか)	4	卒業・修了の基準は決まっており、その基準通りに判定を行っている。
	学生の理解度を把握し、適切な指導を行っているか。	5	授業内で行われるアチーブメントテスト、作文評価、年2回の期末テストを通して学生の理解度を把握し、担任ごと定期面談や個別指導を行っている。

	学生の日本語資格試験（EJU・JLPT 等）の成績を把握し、まとめているか。	5	目標のレベル・点数を把握し、試験申込時に学生の日本語レベルにあわせて担任より受験級の指導を必要であれば行っている。試験の合格者や点数は面談をととして把握し、記録もとっている。
	入学から修了・卒業までの学習成績を記録、保管し、適正に管理しているか。	5	入学時のプレイスメントテストから授業でのそれぞれのテストの点数、EJUの得点、JLPTの合格級等、個人カードや学生管理システムに記録し、学校で決められた期間保管し、管理をしている。
	学生の卒業後の進路を適切に把握しているか。	5	進路決定時に進学先から入学許可書等もらい、提出してもらうことで、進路を把握している。すべての学生が進路決定するまで、担任および国担当者と連携して学生と連絡を取り続けている。
	卒業生及び修了生の進学先等での状況を把握しているか。	4	進学先からの報告は適宜受けている。

【6】 学生支援

番号	点検項目	評価	現状・課題
6-1	支援体制		
	学生支援計画を策定し、支援体制が整備されているか。	5	担任を中心とした学生支援体制を整備し、教務部・総務部と連携しながら対応を行っている。また、定期的な個人面談や出席状況の確認を通して、学生状況の把握に努めている。
	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか。	5	教務部と総務部が連携して問題に対処できる体制を取っている。長期休暇中は SNS を通して担任及び各国担当者に連絡が取れるようにし、いつでも対応できるようにしている。
6-2	生活面における支援		
	学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか。	5	国民健康保険に全員加入していると同時に、留学生保険の紹介及び加入推進を行っている。出席率・アルバイト状況の確認、在留カード・保険証の更新サポート、非常時の対応・自転車交通マナー・生活マナー等の指導を行っている。

	学生全体の生活状況について定期的に調査しているか。	5	担任による学期ごとの個人面談で調査し、個人カードとシステムで管理している。また、常に担任が学生とコミュニケーションをとり、変化に気づくよう心がけている。
6-3	入国・在留関係に関する指導及び支援		
	入管法上の留意点について、学生への伝達・指導等を定期的に行っているか。	5	入学時のオリエンテーションや掲示物、学校の SNS を通して喚起を行い、入管法はじめ法律上の留意点を指導している。
	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組みを継続的に行っているか。	5	アルバイト先、友人、親族などの把握に努め、不法行為への対策をとっている。警視庁国際対策犯罪課の方を招き、学生管理犯罪について教師の研修も行っている。
	除籍・退学・修了・卒業で帰国予定となった学生の帰国確認を適時行い、それら出国確認の書類を適正に管理しているか。	5	航空券の確認及び帰国後のパスポートの出入国スタンプや処理済みの在留カードの写真、出入国在留管理庁の在留カード等番号失効情報照会での照会などで確認を行っている。

【7】 教育環境

番号	点検項目	評価	現状・課題
7-1	校地・校舎		
	教育機関として適切な位置環境にあるか。	3	周辺環境については考慮すべき点がある。引き続き適切な場所を探していく。
	安定的に教育活動を継続するための校地校舎が整備されているか。	4	自己所有でないが、長年賃貸借契約を継続している実績がある。
	校舎面積は基準に適合しているか。	5	法務省告示基準及び、認定日本語教育機関認定基準を満たす面積を確保している。また、教室のほか学生が利用できるロビーも備えている。
7-2	施設・設備		
	教室およびその他施設は基準に適合しているか。	5	告示基準及び認定基準を満たす教室数および教室面積を備えている。
	教室内は十分な照度があり換気がなされているか。	5	各部屋に窓・空調設備が設備されており、照明もリフォーム工事を通して LED 照明の導入が進んでいる。

	授業時間外に自習できるスペースが十分確保されているか。	5	校内ロビーに自習できるスペースを備えている。
	教育、学生数に応じた図書やメディアが整備され、利用できる環境になっているか。	3	学生の共有スペースとなるロビーに教材等の図書を用意している。今後より充実させていく予定。
	教職員の執務に必要なスペースは確保されているか。	5	労働安全衛生法に基づく事務所衛生基準規則を満たす教員・事務員室を確保している。
	法令上必要な設備等が備えられているか。	5	消防法・建築法上必要とされている設備は整えてある。
	廊下や階段等は、緊急時に危険のない状態となっているか。	5	廊下や階段は常に整頓されており、夏場の扇風機等をのぞいて緊急時に移動を阻害する物は置かれていない。
	バリアフリー対策が施されているか。	4	全フロアにエレベーターで移動可能であり、各フロアに障害となる大きな段差はない。
	校内の清掃状況は管理が行き届いているか。	5	廊下・階段を含め、毎営業日に授業時間後は清掃が行われており整頓されている。

【8】 入学者の募集と選考

番号	点検項目	評価	現状・課題
8-1	募集方針		
	理念・教育目標に沿った学生の受入れ方針を定め、年間募集計画を策定しているか。	5	理念・教育目標に沿った学生の受入れ方針を定めている。また、卒業生・修了生数、各年度の COE 交付率等を踏まえ、年間募集計画を策定している。
	募集定員の範囲で募集活動を行っているか。	5	定員である 1,800 名の範囲内で募集活動を行っている。
	募集担当職員は、学校の情報を正しく認識した上で、入学相談を行っているか。	5	年 4 回ある募集のタイミングで都度確認している。
	教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報、求める学生像、及び応募資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示されているか。	5	募集方針に基づき、出願書類及び面接等により、求める学生像、応募資格及び出願条件への適合性を確認し、適切な学生募集及び選考を行っている。

8-2	募集活動		
	海外の募集代理人（エージェント等）に最新かつ、正確な情報提供を行うとともに、その募集活動が適切に行われていることを把握しているか。	5	年 4 回ある募集のタイミングで都度情報提供・確認している。
	教育内容・教育成果を含む、最新かつ正確な学校情報が入学希望者の理解できる言語で開示されているか。	5	ホームページ及び募集要項において、教育内容、教育成果、求める学生像、応募資格・条件等の情報を、入学希望者が理解できる複数の言語で提供している。
	募集活動を行う国・地域の法令を遵守した募集活動を行っているか。	5	募集活動を行う国・地域の法令を遵守し、適正かつ適法な募集活動を行っている。
8-3	入学選考		
	入学選考基準及び方法が明確化されているか。	4	入学選考基準及び方法については、募集要項への記載は一部にとどまるものの、出願時の案内及び面接等において、選考方法について説明し、入学希望者に対して適切に周知している。
	学生情報を正確に把握し、提出書類により信憑性の確認を行っているか。	5	学生から提出された証明書等の出願書類に基づき、学生情報を正確に把握するとともに、記載内容の信憑性について確認を行っている。必要に応じて、追加資料の提出を求めるなど、適切な確認体制を整えている。
	入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか。	5	その年の応募者全体の質による基準の変動はあるが、一貫した基準で選考されている。
	受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認しているか。	5	面接等で「留学」の課程であることを確認し、卒業後の進路として進学を挙げている学生のみを受け入れている。
	選考結果（可否、点数、評価コメント）が帳簿に記録され、5 年間保存されているか。	5	応募時に集めた書類と共に電子データとして保存している。

【9】 財務

番号	点検項目	評価	現状・課題
9-1	財務状況		
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	5	常に中長期的な観点で運営しているので、経営基盤は比較的安定している。
	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	5	適正な予算・収支を維持していることで営業赤字が一度も出ていない。
	財務について会計監査が適正に行われているか。	5	経理部に常勤役員がおり、リスク回避をしている。
	財務情報公開の体制整備はできているか。	5	毎年、税理士事務所を通じて決算報告書を作成しており、体制整備に努めている。
9-2	給付金		
	入学検定料、入学金、授業料その他納付金の金額、納付時期、納付方法及び学費以外に入学後必要な費用を募集要項等に明記しているか。	5	学費等必要経費は募集要項に明確に記載し周知している。
	関係諸法令に基づいた学費返還に関する規定を定め公開しているか。	5	学費返還に関しては、最判平成 18 年 11 月 27 日に基づいて処理している。
	上記の納付金については入学志願者、在籍者及びその経費支弁者の理解できる言語で情報公開に努めているか。	5	入学志願者、在籍者及びその経費支弁者が理解できるよう、日本語のほか各国語の募集要項を作成し、当該募集要項を通じて情報公開に努めている。

【10】 法令・告示基準等の遵守

番号	点検項目	評価	現状・課題
10	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がされているか。	5	法務省告示基準を遵守しており、適正校 Class1 に指定されている。認定法遵守に関しては認定とその後の運営をもって遵守していると判断すべき。

	学生に対し、我が国の法令を遵守させる指導を行っているか。	5	オリエンテーションによる指導、警視庁・入管によるポスターを掲示するなど法令を遵守させるよう努めている。
	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	5	学生データベースはパスワード設定されており、役職による閲覧制限を設けて利便性と保護の両立を図っている。
	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。	4	長年改善点として挙げられているものもあるが、設置場所等変更が容易でないものもある為、長い視点で着実に改善に努めている。
	自己点検・自己評価を公開しているか。	5	毎年当校のホームページにて自己点検・自己評価の結果を公開している。
	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか。	5	入管や関係省庁への定期報告は日常の業務として報告関連書類が設定されている。

【11】 地域貢献・社会貢献

番号	点検項目	評価	現状・課題
11	他の教育機関、企業、団体及び地域との連携、交流を図っているか。	4	大学を訪問しての見学会や進学を希望する学校の説明会などを校内で実施している。また、日本語教員の採用においては大学を訪問して教員志望の学生と交流するなどしている。その他、校外学習では、企業や団体を訪問し、抱えている問題点を伺いながら体験を通じた交流を行うなどの試みを行っている。一方で地域との連携や交流などについてはまだ十分だとは言えないため、引き続き検討していく。
	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	3	学生へ働きかけてはいるが、支援までは行っておらず今後の課題と認識している。

【12】 安全・危機管理

番号	点検項目	評価	現状・課題
12-1	健康・衛生		
	学生の健康管理を担う組織体制があり、機能しているか。	5	年に一度、在校生を対象に健康診断を実施している。教室、ロビーにアルコール消毒を設置している。感染症や熱中症等の注意喚起ポスターをロビーに掲示している。
	学生全員が適切な健康保険に加入しているか。	5	国民健康保険に加入しているか入学時に新入生全員を対象に確認している。
12-2	危機管理		
	火災・地震・台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所を定めているか。	5	避難訓練の事前授業で災害時の避難方法について写真や映像を用いて説明している。避難経路、避難場所を定め、避難訓練で実際に確認している。教務室および各教室にマニュアルカードを設置し、災害時にどこにいても、だれでも対応ができるようにしている。
	災害等に対する避難訓練を定期的に行っているか。	5	避難訓練の事前授業で災害時の避難方法について写真や映像を用いて説明している。避難経路、避難場所を定め、避難訓練で実際に確認している。教務室および各教室にマニュアルカードを設置し、災害時にどこにいても、だれでも対応ができるようにしている。

令和 8 年 5 月

東京早稲田外国語学校 自己点検・自己評価委員会

校長 久嶋 真子

顧問 沼田 宏

教務部主任 杉浦 琴美

教務部主任 平出 みずき

教務部主任 小池 香里

総務部主任 大貫 由美子